



悲しい夕暮

白路

實は、新井君に頼まうと思つてやつて来たのです。松本は、云つて椅子に腰を下して、うつて来ました。松本は、今日自動自転車の工合が悪くなつて仕舞つてもう配達出来ないやうになつて丁度了手のものですから。大木さんと新井の方を見た。

「さうかね、それは困つたね。でも自動自転車の工合が悪いんだから仕方がないぢやありますか？」

新井は、松本の言葉に答へて居た。新井は、大木さんのいふのをさへぎつて、でも自動自転車の工合が悪いんだから仕方がないぢやありますか？」

新井は、松本の言葉に答へて居た。新井は、大木さんは、いふのをさへぎつて、でも自動自転車の工合が悪いんだから仕方がないぢやありますか？」

（續）

